第１５５回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２９年９月２０日提出）

１．題　目：平成 29 年度 FD・SD サマーワークショップ
「アクティブラーニングの問題点について考える」
２．日　時：平成 29 年 9 月 5 日（火）10:30～12:00

３．場　所：文教キャンパス　教養教育棟 1 階　A-12 教室

４．主　催：教務委員会
企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象： 全教職員（非常勤を含む）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
[　○　]（1）　教員の教育活動に関するもの
[　　]（2）　カリキュラムの改善に関するもの
[　　]（3）　教育の組織的改善に関するもの
[　　]（4）　入学者選抜方法の改善に関するもの
[　　]（5）　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義
本学に限らず，全国的にアクティブラーニングが推進されていますが，ここでいったん立ち止まって，アクティブラーニングの問題点や疑問点について考え整理したいと思います。

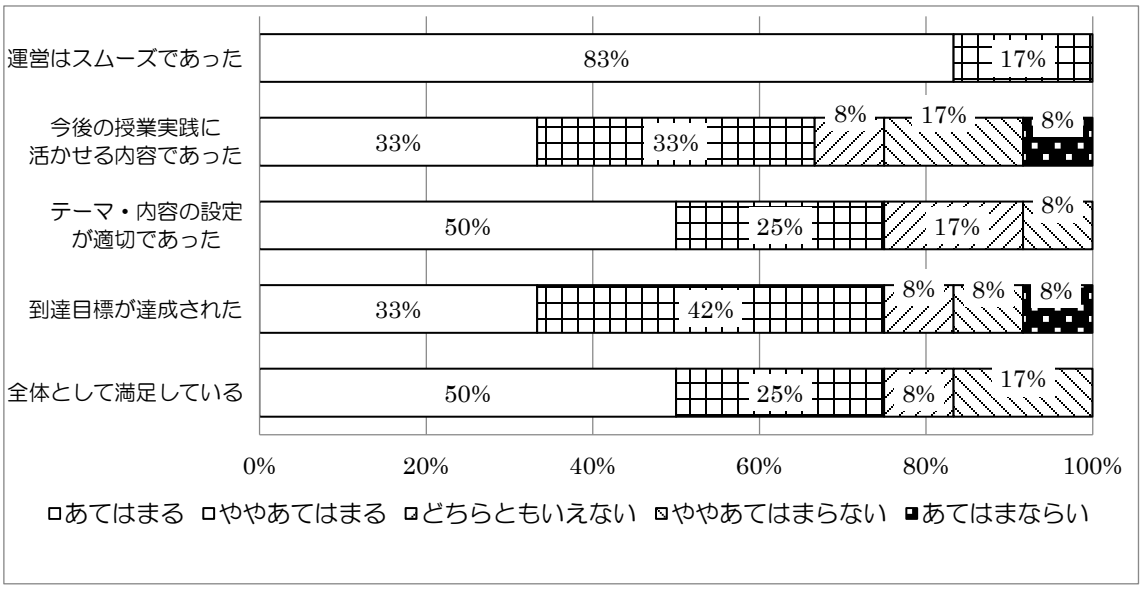
８．プログラム構成［題目・担当講師］
【講師】成瀬尚志 准教授（大学教育イノベーションセンター）
北村　史 助教（大学教育イノベーションセンター）
前田裕介 助教（大学教育イノベーションセンター）
【内容】
アクティブラーニング型授業を取り入れている方もそうでない方も，どのような問題があるかについて意見を出し合います。大学で実現したい教授学習がどのようなものか，また，学生に期待する学びとはどのようなものかについて検討します。

【到達目標】
・アクティブラーニング型授業の問題点や疑問点について整理できる。
・それらの問題点や疑問点を克服するために何が必要かについて考える。

９．参加者：19 名（受講証発行対象者：19 名）
（内訳）

所　　属	人　　数
教育学部	4
経済学部	1
工学研究科	2
医歯薬学総合研究科（保系）	1
医歯薬学総合研究科（歯系）	1
医歯薬学総合研究科（薬系）	3
水産・環境科学総合研究科（環境）	2
水産・環境科学総合研究科（水産）	1
熱帯医学研究所	1
国際教育リエゾン機構	1
キャリア支援センター	1
病院	1
計	19

１０．実施したＦＤの成果等
（１）参加者からの評価（回答者：12 名）



●今回のプログラムについて，お気づきの点・ご意見・ご感想をご記入下さい。

教育職員

- 成瀬先生ご進行のもと北村先生のツッコミがはいり勉強になりました。また星野先生の最後のお話が勉強になりました。ありがとうございました。
- 今後の授業をするにあたり，かなり参考になりました。
- アクティブ・ラーニングでも，「プレゼン」しない形もあっても良い（んでしょうか）ことを知りました。
- グループでのディスカッションは盛り上がり本質的な話ができましたが，全体としては問題点を抽出しただけでぼんやりと終わった気がします。次のサマーワークショップにも参加してつなげることを期待されているのだと思いますが，独立して回を設けるのであれば，もう少し解決策に力点をおいていろいろなアイディアを出してもらったりした方が，学ぶところが多かったように思います。
- 漠然としていた AL についてのイメージが少しクリアになった。他の先生方もいろいろと工夫されていることを知り，自分の講義にも取り入れていきたい。
- 「AL の問題点を考える」という課題だったので，問題点の解決策を考えるのかと思いました。その点で，予想していたのと内容が違ったことが，上のアンケートの評価が厳しくなっている理由です。このようなグループ討論は有効であるとは思いますが，90 分枠では短いような気がします。午前中いっぱいを使うなどがいいのかもしれませんが，そうすると参加者が減るのかもしれませんね。企画される方々の苦労，分かるつもりです。
- 自分が考えていた問題点を，他の人も（特に同じ理系教員が）同じように考えていた事がわかり，問題点を共有できた。しかし，問題の解決方法はよくわからなかった。最後の星野先生の話は参考になった。
- そもそも「アクティブラーニング」から非常に勉強になった。一方で，様々な問題点があ

るが，学生の質や数，学年，内容，また物理的な問題等や事情が異なる中で，合わせて考えることに意義もあるが，噛み合わない部分もあるように感じた。問題提起して考えることである種の満足感は得られたが，結局回答が得られていない感覚にも陥っている。

・ 本日は日頃より気になっている内容をご紹介いただきありがとうございます。次の学習指導要領は，改訂の本丸が高等学校で，内容もALをいかに実施するか，ICT活用の予算的な配当も含め話題となっております。今回の内容だと，文科相が高等学校に求めている内容に近いと思わざるを得ません。あと数値年後には，今回の内容を熟知もしくは体験した大学生だらけになると考えると，大学の教育をどう捉えるのか，そこまで迫った内容で取り上げていただければと思います。大学は，授業というより講義と捉えるにふさわしいALを深めていくことができればと思います。

●長崎大学FDとしてとりあげるテーマ・内容についてご意見・ご要望をご記入下さい。

教育職員

・ ぜひ今日でてきた問題課題に対する解決方法を教えてくださる回を開催お願いします。
・ モジュール科目の意義について，再検討する時期にきているのではないでしょうか。
・ 今日，よく話題に挙がっていた「評価」は，いかがでしょうか。
・ 本日のグループ討論でも出たのですが，例えば本日のようなテーマでしたら，大人数のALを行っている人の具体例を聞けるとか，評価の仕方で，うまくいっていると思われるものを紹介していただけるとか，成功例，失敗例（演者が嫌がるかも）などの話を聞けたら，そしてそれに対して，こうしたらいいんじゃないかとか，こうしたら学生の関心が薄れるかなとか，自分ではこういうのを考えているけどどうかなどのグループ討論を行うようなものを取り上げて欲しいと思います。
・ 互いの強みを生かしたチームティーチングの方法，教養教育（非専門科目）で学生の学修に対するモチベーションを上げる方法，全学モジュールに以降した事に関するこれまで評価と今後の体制
・ シラバスの作り方（教員と学生側の両視点から検証したい）

（2）総　括

参加者を4班に分けてのグループワーク方式によるFDであった。本FDそのものがアクティブラーニングの手法を活用したことにより,アクティブラーニングそのものについて理解度が高いとはいえない参加者にとっても議論に参加しやすい雰囲気が醸成されたこと、また、アクティブラーニングについての理解を深めることができた点においても,手法は効果的であったと考える。敢えていうならば、グループ発表もあったことから，グループ名をつけることができたならば，よりよかったのではないかと感じた。

活発に意見を出す者や,出てきた意見をとりまとめて議論を進めるリーダー的役割を果たす者などの存在如何で、議論の活発度や取りまとめ方に差が見られた。作業内容の最終アウトプット

がイメージできていない班もあったことから，KJ 法の最終成果物のイメージを予め略図などを提示するなどができていれば良かったのではないかと考える。また，グループ発表に際しては，発表者を毎回決めるように事前にアナウンスしたりするなどの工夫があればより効果的なであったのではないかと思われる。

（文責：熱帯医学研究所　奥村順子）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　星野 由雅
e-mail：hoshino@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　寺川 美穂
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp　　電　話：内線 2077

第１５５回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２９年１０月３日提出）

１．題　目：平成 29 年度 FD・SD サマーワークショップ
「授業でホワイトボードを活用したときの効果について考える」
２．日　時：平成 29 年 9 月 6 日（水）13:30～15:00

３．場　所：文教キャンパス　教養教育棟 1 階　A-12 教室

４．主　催：教務委員会
企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象： 全教職員（非常勤を含む）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
［　○　］(1)　教員の教育活動に関するもの
［　　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
［　　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
［　　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義
いつでもどこでもできて，学生の思考が活性化される授業手法としてホワイトボード（あるいは模造紙）を活用した授業事例を紹介します。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
【講師】成瀬尚志 准教授（大学教育イノベーションセンター）
北村　史 助教（大学教育イノベーションセンター）
前田裕介 助教（大学教育イノベーションセンター）
【内容】
ホワイトボード（及び模造紙とふせん）を用いた授業の事例を紹介します。実際に，授業でのホワイトボードや模造紙の活用の仕方について参加者同士でアイデアを出し合います。

【到達目標】

・　ホワイトボードや模造紙を用いたアクティブラーニング型授業を体験する。

・　ホワイトボードや模造紙活用型授業のポイントについて理解する。

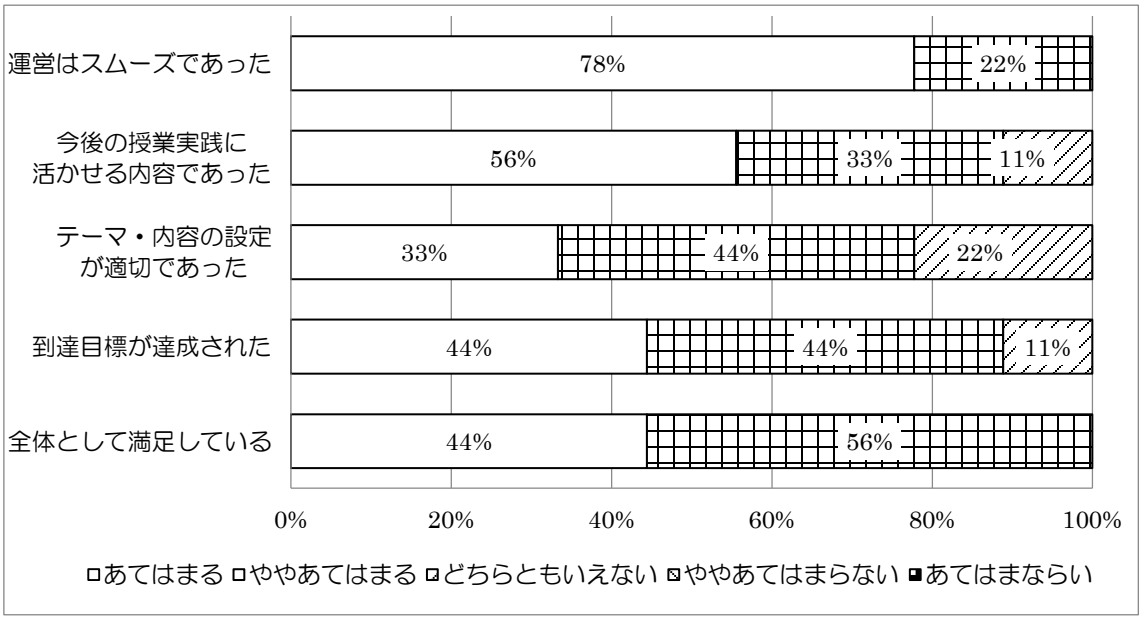
９．参加者：10 名（受講証発行対象者：10 名）

（内訳）

所　　属	人　　数
教育学部	1
工学研究科	1
医歯薬学総合研究科（医系）	1
医歯薬学総合研究科（歯系）	1
水産・環境科学総合研究科（水産科学領域）	1
病院	1
国際教育リエゾン機構	1
言語教育研究センター	1
ダイバーシティ推進センター	1
キャリア支援センター	1
計	10

１０．実施したＦＤの成果等

（１）参加者からの評価（回答者：9 名）



●今回のプログラムについて，お気づきの点・ご意見・ご感想をご記入下さい。

教育職員

- 先生方のファシリのおかげで各グループから具体的な例がでて大変勉強になりました。ありがとうございました。最後に成瀬先生がおっしゃっていた全学への共有期待してます。
- 時間の経過が短く感じた＝集中して取り組むことができた。２点掲げられていた到達目標の１点目は到達できたが，２点目についてはやや到達できた感じがする。活動と知識提供場面のバランスについて考えさせられた。いずれにしても他者とコミュニケーションする楽しさを味わえたＦＤだった。計画，当日の運営に心から感謝したい。講師の先生方の肯定的な雰囲気が今回の学びを深めていたように感じる。
- 上手に利用している方の実践事例を，もっと知ることができると，さらに有益だったかと思います。
- とても良いプログラムでした。
- 模造紙を取り入れた授業は有効であり，実用的であると思ったが，自分が授業に取り入れようと思うと，スペースの問題から大人数相手では現実的ではないと思いました。文系では良いのかもしれないですが，理系では多少厳しいかと思われます。
- 内容自体は良かったのですが，自分が勝手に今日の内容は，自身がホワイトボードを使って講義する際にどのようにプレゼンテーションすることで学生に魅力的になるかということを学習するものと思っていたので，自分が学びたいと思っていたこととは少し異なるところでした。
- ホワイトボードというトピックで，1 時間半もつのか気になりながら参加したが，おもしろかった。授業のいろんな段階で活用できそうだ。
- くだらない意見も何とか取り込もうされている担当者の皆さんに感服しました。
- 今では全く使用しなくなった模造紙の活用をテーマで行う事になり，最初は正直戸惑った。しかし，プログラムを進めていくうちに有用性を実感できた。模造紙やふせんを今後活用していきたい。

●長崎大学 FD としてとりあげるテーマ・内容についてご意見・ご要望をご記入下さい。

教育職員

- 講義型授業の向上方法もあったらいいな。
- 専門内容を教える際に，学生が分かりやすい方法などの実戦形式のものがあれば幸いです。
- 上記の内容をやっていただきたいと思っています。
- 実際に活用されている先生方の意見が聞きたいです。
- 既存の FD を全て参加していないという意味で，特になし。一通り参加した後，要望を提出させていただきます。シラバスの作り方（教員と学生側の両視点から検証したい）

（２）総　括

本FDは，授業で模造紙やホワイトボードを用いた場合の効果について理解を深めることを目的に開催された。FDの構成はまず，「PCやLACSにはない模造紙を使うことの特徴」を付箋紙に書き出す個人作業から始め，グループ内で出てきた多種多様な意見を，模造紙上でカテゴリーごとに分類し整理した。さらに，グループワークの成果の共有と発表を行った。次いで，同じワークショップ形式で，「模造紙の授業への活用方法」をテーマにグループワークを行った。テーマの設定やそれぞれの作業の時間配分も適切で，全ての参加者から「あてはまる」あるいは「ややあてはまる」の回答を得ているように，スムーズな運営がなされていた。模造紙と付箋紙といったローテクな部類の教材であるが，アイデア次第では大きな教育効果が期待できると感じた。参加者からの全体的な満足度も「あてはまる」あるいは「ややあてはまる」であることからも伺えるとおり，密度が濃いFDであった。

（文責：水産学部　石橋郁人）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　星野 由雅
e-mail：hoshino@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　寺川 美穂
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp　　電　話：内線2077

第１５５回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２９年１０月１２日提出）

１．題　目：平成 29 年度 FD・SD サマーワークショップ
「プレゼンテーションをいかにして学生の思考の活性化の手立てとするか」

２．日　時：平成 29 年 9 月 20 日（水）13:30～15:00

３．場　所：文教キャンパス　教養教育棟 1 階　A-12 教室

４．主　催：教務委員会
企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象： 全教職員（非常勤を含む）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
[　○　]（1）　教員の教育活動に関するもの
[　　]（2）　カリキュラムの改善に関するもの
[　　]（3）　教育の組織的改善に関するもの
[　　]（4）　入学者選抜方法の改善に関するもの
[　　]（5）　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義
授業でプレゼンテーションを取り入れている際には，どのような点を気をつければよいでしょうか。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
【講師】成瀬尚志 准教授（大学教育イノベーションセンター）
北村　史 助教（大学教育イノベーションセンター）
前田裕介 助教（大学教育イノベーションセンター）
【内容】
プレゼンテーションを授業で取り入れた際，調べてまとめる以上の何を学生に求めるべきでしょうか。学生が理解を深める必然性のある問いの立て方や指示の出し方や授業設計について検討します。

【到達目標】

- プレゼンテーションを取り入れた授業の問題点について考える
- プレゼンテーションを取り入れた授業の到達目標について整理するホワイトボードや模造紙活用型授業のポイントについて理解する。

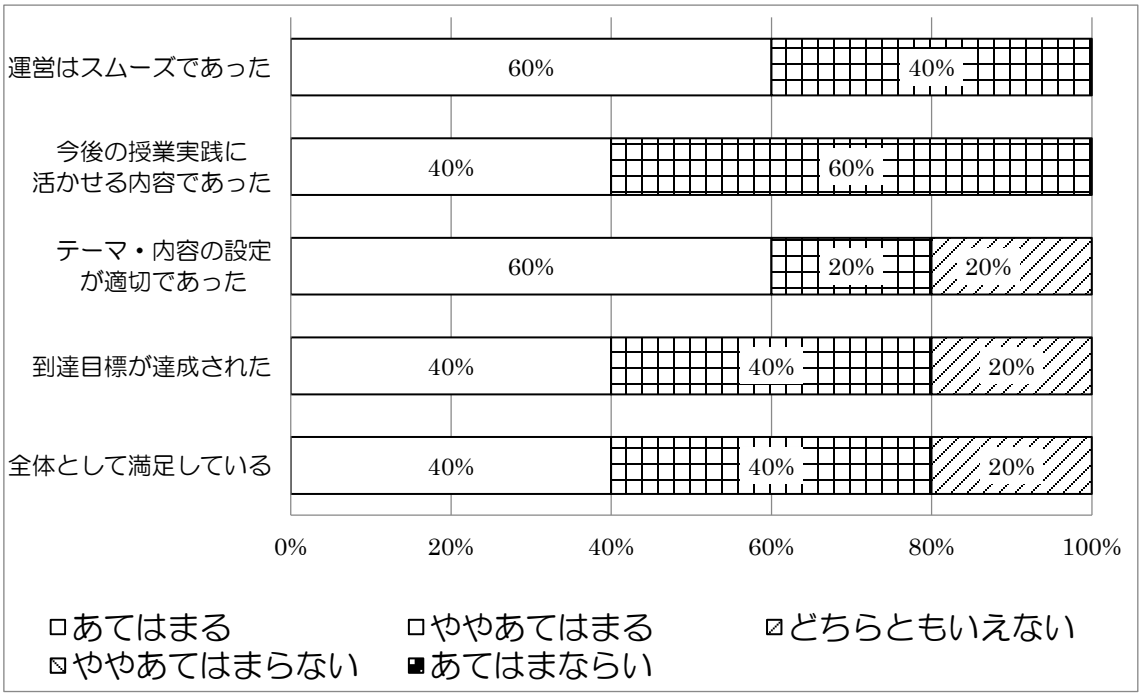
９．参加者：９名（受講証発行対象者：９名）

（内訳）

所　　属	人　　数
教育学部	4
工学研究科	1
医歯薬学総合研究科（歯系）	1
医歯薬学総合研究科（薬系）	1
キャリア支援センター	1
産学官連携戦略本部	1
計	9

１０．実施したＦＤの成果等

（１）参加者からの評価（回答者：５名）



●今回のプログラムについて，お気づきの点・ご意見・ご感想をご記入下さい。
教育職員

- まとめないのもまとめの内ということを知って目から鱗でした。
- プレゼンテーションの際の「お題」をいかにつくるか大変参考になった。あっという間の１時間半だった。質疑応答の時間があるとよかった。

●長崎大学 FD としてとりあげるテーマ･内容についてご意見･ご要望をご記入下さい。
教育職員

- 大学の講義における目標設定の仕方。「この 1 時間で何を教えるか」をどのように設定するか。(15 回の授業の作り方。ほかの教員の授業づくりの方法を聞きたい。)

（２）総　括

本 FD は，プレゼンテーションをいかにして学生の思考の活性化の手立てとするかを考えるために開催しました。最近の学生は，パワーポイント等のプレゼンテーションツールの使い方は上手になっていますが，テーマの出し方次第では，wiki を調べただけの内容になる可能性があります。そこで，お題を如何に作るか等の議論を深めるために，参加者を２グループに分け，まず，思いつく限りのお題を出して，それぞれの経験や問題点を出し合うことから始め，最後には，各人が提案したお題について講師の先生を含めて討論を行いました。これから，プレゼンを取り入れようという参加者や，お題の設定やプレゼンの進め方を悩んでいる参加者等が，文系，理系それぞれの立場から議論を行えたことは有意義であったと思います。また，参加者９名に対して，講師の先生が 3 名という手厚い指導も受けられました。

従いまして，参加者からの評価としては，概ね，満足度の高い内容であることが確認されました。ただ，web でのアンケート回答の徹底と参加者を増やすことは，今後の課題かと思われます。

（文責：医歯薬学総合研究科　中山守雄）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　星野 由雅
e-mail：hoshino@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
主査　寺川 美穂
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp　　電　話：内線 2077

第１５５回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２９年１０月５日提出）

１．題　目：平成 29 年度 FD・SD サマーワークショップ
「宿題の出し方と宿題の授業での活用法についての実践事例紹介」

２．日　時：平成 29 年 9 月 21 日（木）10:30～12:00

３．場　所：文教キャンパス　教養教育棟 1 階　A-12 教室

４．主　催：教務委員会
企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象： 全教職員（非常勤を含む）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
[　○　]（1）　教員の教育活動に関するもの
[　　]（2）　カリキュラムの改善に関するもの
[　　]（3）　教育の組織的改善に関するもの
[　　]（4）　入学者選抜方法の改善に関するもの
[　　]（5）　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義
授業の中での学習を高度なものにするために宿題は欠かすことができません。しかし，実際にどのような形で宿題を出すのが効果的でしょうか。また，その宿題をどのように教室の授業の中に反映させるのがよいのでしょうか。こうした宿題の出し方について検討します。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
【講師】成瀬尚志 准教授（大学教育イノベーションセンター）
北村　史 助教（大学教育イノベーションセンター）
前田裕介 助教（大学教育イノベーションセンター）
【内容】
宿題の出し方について「課題設定」と「教室内での授業での活用法」の 2 つの観点から，実践事例を通して検討します。

【到達目標】

・　宿題の出し方について「課題設定」のレパートリーについて理解する

・　宿題について「教室内での授業での活用法」のレパートリーについて理解する

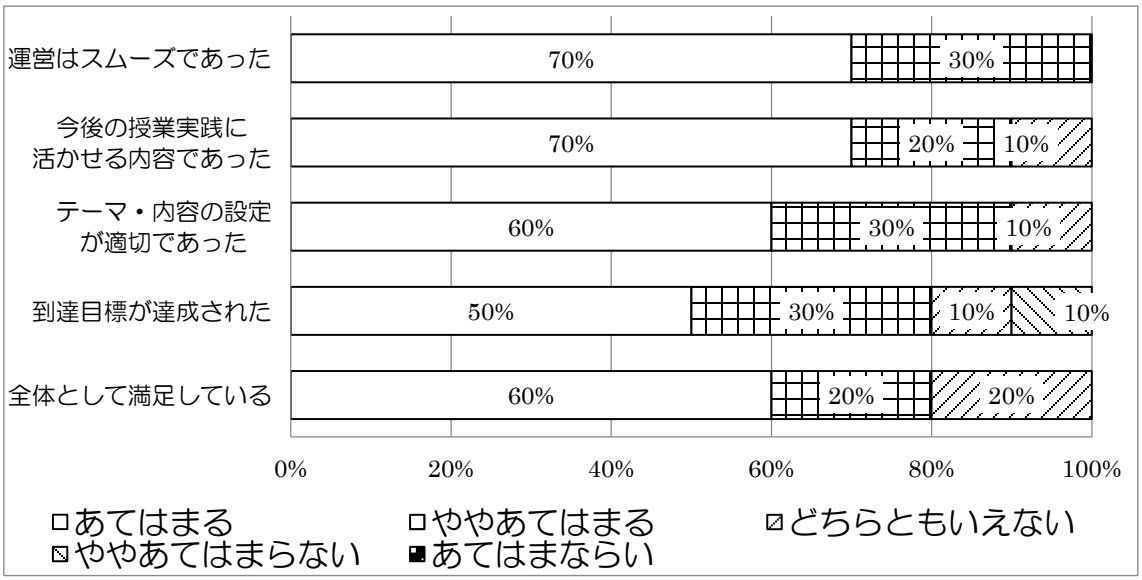
９．参加者：11 名（受講証発行対象者：11 名）

（内訳）

所　　属	人　　数
教育学部	3
経済学部	1
医歯薬学総合研究科（歯系）	3
水産・環境科学総合研究科（環境科学領域）	1
ダイバーシティ推進センター	1
キャリア支援センター	1
計	10

１０．実施したＦＤの成果等

（１）参加者からの評価（回答者：10 名）



●今回のプログラムについて，お気づきの点・ご意見・ご感想をご記入下さい。

教育職員

・　テーマ設定が宿題に限定されていて具体的で大変勉強になりました。ありがとうございました。

・　ワークショップとして参加者の作業を中心に，円滑な運営が行われたと思います。

いくつかの宿題の提示の仕方を学ぶことができ，有意義でした。学生は同時にいくつかの科目を履修するわけで，それぞれの学年での科目を統合した形での宿題の出し方（学生の負担軽減）について調整する体制が必要ではと思います。

- 宿題に関しても，アクティブラーニング同様にやりっぱなしになりがちです。評価について重視して取り上げていただければと思います。
- 他学部の先生方が宿題についてどのような工夫をされているのかがよくわかりました。
- 質疑応答の時間が欲しかった。
- 大変参考になりました。
- 細かな具体的なテーマで大変勉強になりました。ありがとうございます。ぜひまたこういうテーマのシリーズをお願いします。
- グループ内での討論を通じて，共感，自と他との違いの認識，新たな視点の構築など，様々な刺激が得られました。

●長崎大学 FD としてとりあげるテーマ･内容についてご意見･ご要望をご記入下さい。
教育職員

- 今回みたいに細かなテーマごとの開催もありがたい。クリッカーもうまく使いこなせてないきがします。
- 様々なテーマでＦＤを企画してくださり，ありがとうございます。会議や出張で出席が叶わない場合があり，後日，当日のレジュメがいただけると大変ありがたいです。
- クリッカーももっと応用したいと思いますがうまく使えていません。
- 効果的な資料の活用法

（２）総　括

大学生の課外学習時間の低下が全国的に問題となっており、長崎大学においても例外ではないことを最近の調査は物語っている。課外学習時間を増加させる方法の１つとして宿題が考えられるが、宿題の出し方について教員間で議論する場はいままでほとんどなかったように思われる。今回の FD はその点、たいへんタイムリーな企画であった。参加者は３つのグループに分かれ、KJ 法を使って意見の整理を行いながら、宿題の出し方についての注意点などの意見の集約を行った。参加者の評価が示すように当初の目的を十分達成した FD であった。

（文責：医歯薬学総合研究科　中山浩次）

１１．実施代表者の連絡先
教務委員会委員長　星野 由雅
e-mail：hoshino@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先
学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　寺川 美穂
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp　　電　話：内線 2077

第１５５回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２９年１０月１０日提出）

１．題　目：平成 29 年度 FD・SD サマーワークショップ
「合理的配慮の実践とユニバーサルな授業設計について」

２．日　時：平成 29 年 9 月 25 日（月）10:30～12:00

３．場　所：文教キャンパス　教養教育棟 1 階　A-11 教室

４．主　催：教務委員会
企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象： 全教職員（非常勤を含む）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
[　○　]（1）　教員の教育活動に関するもの
[　　]（2）　カリキュラムの改善に関するもの
[　○　]（3）　教育の組織的改善に関するもの
[　　]（4）　入学者選抜方法の改善に関するもの
[　　]（5）　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
今年の 3 月に『障害のある学生の修学支援に関する検討会報告（第二次まとめ）』が出されました。平成 28 年 4 月に施行された「障害者差別解消法」を踏まえ，高等教育段階における障害のある学生の修学支援の在り方についてとりまとめられています。本プログラムでは，この第 2 次まとめのポイントを解説し，事例を通して授業等における合理的配慮の実践を検討し，教育活動の改善への貢献をめざします。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
【講師】ピーター バーニック 助教（障がい学生支援室）
【内容】
『障害のある学生の修学支援に関する検討会報告（第二次まとめ）』の要点について紹介します。また，架空のシラバスをグループごとに合理的配慮の観点から検討し，ユニバーサルな授業設計のための基礎的な考え方を紹介します。

【到達目標】

- 『障害のある学生の修学支援に関する検討会報告（第二次まとめ)』のポイントについて理解する
- あるシラバスについて，合理的配慮の観点からどのような点に問題があるかを指摘することができる
- ユニバーサルな授業設計のための基礎的な考え方を理解する

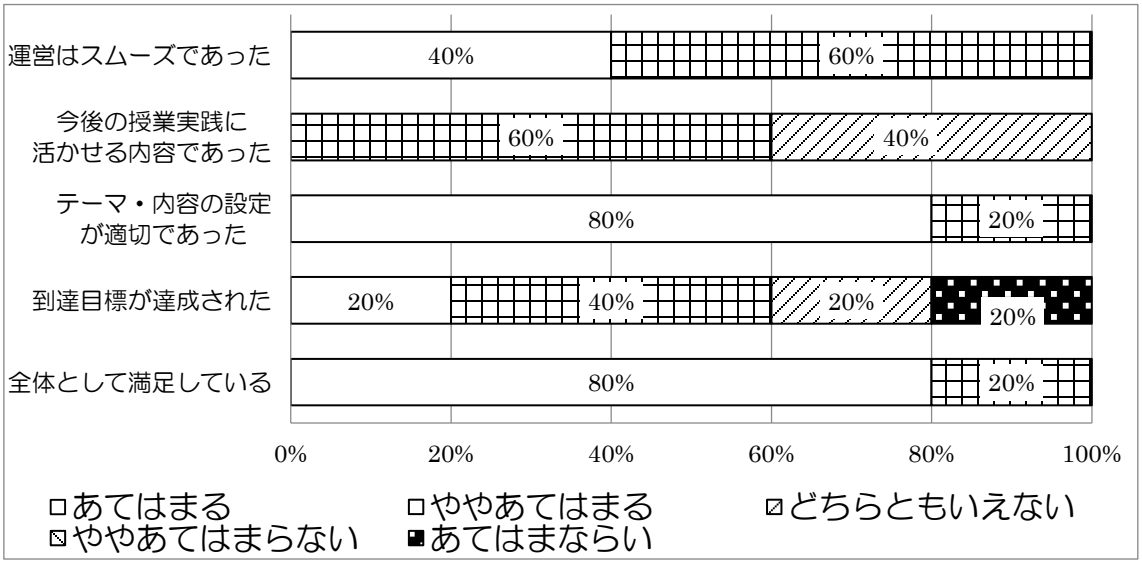
９．参加者：17 名（受講証発行対象者：13 名）

（内訳）

所　　属	人　数
教育学部	6
工学研究科	1
医歯薬学総合研究科（医系）	1
医歯薬学総合研究科（保系）	1
水産・環境科学総合研究科（環境科学領域）	2
医学部医学科先端医育センター	1
障がい学生支援室	1
大学教育イノベーションセンター	4
計	17

１０．実施したＦＤの成果等

（１）参加者からの評価（回答者：5 名）



●今回のプログラムについて，お気づきの点・ご意見・ご感想をご記入下さい。

教育職員

- 今回のプログラムを全員必修（部局別でも可）にして下さい。
- ワークショップの課題は大変興味深いものであったが，グループ内でのディスカッションの時間が短く，十分な論議ができなかった。また，グループディスカッション後の発表の後にも，全体でディスカッションする時間がほしかった。
- 先生の講話がとても分かりやすい物であった。全ての事例ができる設定時間がほしかった。
  全ての事例が身近な物であったため。
- ピーター先生に具体的な例を上げながら話してもらっていいと思います。最後に資料をいただきましたが，国外の制度，方法の例など紹介してほしいと思います。各学部へ出かけてやってもらいたいと思います。もっと多くの教員が聞くと思います。

●長崎大学 FD としてとりあげるテーマ･内容についてご意見･ご要望をご記入下さい。

教育職員

- 教職員と学生が同時受講できるような FD
- 学部や学科での障害学生支援実施の報告を行い，問題点とその解決法を学部の垣根を越えて広く共有するような FD をしてほしい。
- 今後も同一のテーマの継続を実施していただきたい。

（２）総　括

本プログラムでは，今年の 3 月に出された『障害のある学生の修学支援に関する検討会報告（第二次まとめ)』のポイントを解説し，事例を通して授業等における合理的配慮の実践を検討し，教育活動の改善へ貢献することを目的として企画されました。

当日は講師であるバーニック先生から第二次まとめの要点が紹介された後，架空のシラバスをグループごとに合理的配慮の観点から検討し，討論するという形式で実施されました。

参加者の満足度はきわめて高く，「あてはまる（80%)」「ややあてはまる（20%)」を合わせると，全員が肯定的な評価をしていました。一方，到達目標の達成度については 40%が否定的な評価をしており，事例の検討に割ける時間が短く全事例の検討ができなかったこと，全体でディスカッションする時間が取れなかったことなどがその理由であると思われます。障害のある学生に対する「合理的配慮」には様々な考え方があるため，今後同様のテーマでＦＤを実施する場合には，事例に関する検討やディスカッションの時間を十分確保することが望ましいと考えます。

（文責：工学研究科　中村聖三）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　星野 由雅
e-mail：hoshino@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　寺川 美穂
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp　　電　話：内線 2077